

F2-61

ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力に関する研究 —土木遺産ウォーキングツアーに着目して—

A Study on the Charm of Infrastructure Tourism Seen from Member of the Tour -Focusing on Civil Engineering Heritage Walking Tour-

○石田彩乃¹, 阿部貴弘²*Ayano Ishida¹, Takahiro Abe²

Abstract: Recently, the concern for the infrastructure tourism that makes the infrastructure a sightseeing object has risen. Promotion of such infrastructure tourism can be expected to promote regional revitalization and sustainable town development. In this study will clarify the charm that the tour participant feels in the infrastructure tourism.

1. はじめに

近年、我が国では、インフラを観光対象とするインフラツーリズムへの関心が高まっている。国土交通省では、2016（平成 28）年に「インフラツーリズム PORTAL SITE」^[1]を開設し、その推進を支援している。こうしたインフラツーリズムの推進によって、地域活性化及び持続的なまちづくりへの展開が期待できる。

これまで筆者らは、インフラツーリズムに関して、インフラ管理者がどのような魅力付けを行っているのか、その実態を明らかにした^[2]。一方、ツアー参加者が、インフラツーリズムにいかなる魅力を感じているのかについては未解明なままである。

そこで本研究は、ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力进行を明らかにするとともに、そうした魅力を提供するツアーを企画・実施する際の留意事項を抽出することを目的とする。

2. 研究対象

本研究では、2017（平成 29）年 7 月 1 日、7 月 20 日時点で、国土交通省の「インフラツーリズム PORTAL SITE」に掲載されていた全 47 件の民間主催ツアー及び、2017（平成 29）年 7 月 5 日時点で同サイトに掲載されていた全 98 件のインフラツアー紹介パネルを対象として、先行研究^[2]との比較に基づき、インフラツーリズムの魅力の変遷やツアー内容の分析を行う。

また、土木遺産ウォーキングツアーの参加者を対象にアンケート調査を実施し、ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力を把握する。

3. 研究方法

(1) インフラツーリズムの魅力の分析

ポータルサイトに掲載されている民間主催ツアー及びインフラツアーパネルについて、先行研究^[2]になら

い、構造物種別や魅力等を分析し、さらに昨年度の分析結果との比較を行う。

(2) ツアー行程の分析

ポータルサイト掲載の民間主催ツアーの行程や移動手段について調査、類型化し、その特徴を分析する。

(3) ツアー参加者のニーズを把握

インフラツーリズムのうち、まちづくりへの展開が期待できるウォーキングツアーに着目し、参加者へのアンケート調査に基づき参加者ニーズを把握する。

(4) ツアー実施の際の留意事項の整理

既存研究を基に、インフラツーリズムを実施する際に留意すべき事項を把握し、整理する。

(5) ツアーの実施と評価

(3), (4)を踏まえて、ウォーキングツアーを企画・実施し、当該ツアー参加者へのアンケート調査に基づきツアー内容を評価・分析する。

4. 調査結果

本稿では、研究方法 (1), (2), (3), (4)に関する調査結果を示す。

(1) 構造物・魅力の分析と昨年度との比較

ポータルサイトに掲載されている民間主催ツアーとツアーパネルの構造物、魅力、構造物と魅力の関係性について、先行研究の結果^[2]と比較した (Table 1)。その結果、民間主催ツアーとツアーパネルのどちらも、昨年度に比べてツアー件数が増え、対象構造物も多様化していることがわかった。また、魅力に関しては「他の観光資源の見学」が著しく増加していた。

(2) ツアー行程の類型化

民間主催ツアーの行程について把握・分類し、4 パターンに類型化した (Table 2)。

その結果、周辺施設の観光も含む「パッケージツアー型」が最も多いという結果になった。また、パッケー

1：日大理工・学部・まち 2：日大理工・教員・まち

ジツアー型は、バスで広域をめぐるツアーがほとんどであり、自由に見学できる時間・場所は限られている。

Table 2. Type of itinerary

型	行程	件数
a.周遊券型	周遊券の販売をしているなど、好きな時に乗り物に乗って見学できるツアー	10
b.パッケージツアー型	インフラ見学から周辺観光までがツアー行程に組み込まれているもの	26
c1.インフラ見学型(単数)	一つのインフラを見学するツアー	8
c2.インフラ見学型(複数)	インフラのみを複数箇所巡るツアー	3

(3) ツアー参加者から見たインフラツーリズムの魅力

ウォーキングツアーである「ドボ博街歩き」参加者 28 名と、「土木遺産を訪ねて」参加者 17 名を対象に、インフラツーリズムに関するアンケートを行った。主な質問としては「インフラツーリズムへの参加回数」、「インフラツーリズムに感じている魅力」、「今後訪れてみたい構造物」、「今後参加してみたいインフラツーリズムの行程」である。そのうち、多かった回答と(1)の結果を比較したものを Table 3 に示す。

Table 3. Comparison with demand

	参加者アンケート結果(回答数)	民間ツアー	パネル
インフラツーリズムの魅力・売り(上位5項目)	・専門家の解説付き(37) ・歴史を学べる(31) ・スケール・迫り(26) ・普段入れない場所の見学(22) ・敷設された技術に関する説明(22) ・インフラの機能について学べる(22)	・他の観光資源の見学 ・「普段入れない場所の見学」 ・解説付き ・名産品の堪能 ・普段見えない場所の見学 ・自然的な乗り物に乗った見学	・普段入れない場所の見学 ・スケールの体感 ・イベントの参加・見学 ・普段見えない場所の見学 ・期間限定の工事現場
訪れてみたい構造物(上位5項目)	鉄道、橋梁、ダム・堤防、用水、水門、港湾	ダム、橋梁、河川、港湾、道路、空港、河川	ダム、橋梁、道路、橋梁、水産
今後参加したいツアー内容	①解説付き(28) ②複数の構造物を見学(24) ③インフラ見学+散策(23) ④ウォーキングツアー(23)	①、②のようなツアーは多いが、散策ありのツアーやウォーキングツアーは少ない。	①のように解説付きや学習しながら見学できるものはあるが、基本的に構造物の紹介のみ。

※参加者の意見と一致したものに網掛け

アンケート調査対象としたツアーは、鉄道や橋梁、土木遺産をテーマとしたツアーだったこともあり、そうした構造物を「訪れてみたい」とする回答が特に多かった。そして、「今後参加してみたいインフラツーリズムの行程について」は、「解説付きのツアー」が最も多く、「複数の構造物を見学したい」、「ウォーキングツアーに参加したい」という回答も多くみられた。

(4) ウォーキングツアーを実施する際の留意事項

既存研究^{[3][4]}に基づき、土木遺産を対象としたインフラツーリズムを実施する際の配慮事項を抽出・整理した(Table 4)。

Table 4. Consideration

所要時間	・2時間程度(超えてもよいので省略しない) ・一ヶ所あたり5分~10分
内容	・ツアーの一連のテーマを設定する ・対象地域・構造物の歴史、インフラの役割に関する解説 ・建設に携わった技術者に関する説明
見学場所	・普段行かない、見ないようなところの見学 ・騒音が少なく、参加者がどまっても邪魔にならない場所で説明する
休憩時間	・公園、施設などで10分~20分程度(自由に見学できるように)
配布資料	・土木遺産の解説付きのマップがあるとよい

Table 1. Comparison with the last year

		昨年(2016年8月31日時点) ^[2]	今回(2017年7月時点)
構造物	民間	ダム堤体、ダム湖、橋梁、道路、港湾、河川	ダム堤体、橋梁、ダム湖、河川、港湾、道路、空港、公園、トンネル、水門、鉄道、砂防、水路
	パネル	ダム堤体、道路、ダム湖、河川、港湾、公園、橋梁、砂防(その他を除く)	ダム堤体、港湾、道路、橋梁、水道・水路、ダム湖、河川、砂防、鉄道、公園、トンネル(その他を除く)
魅力	民間	・「他の観光資源の見学」は0件で、周辺地域との連携を意識しているものは少ない。	・「他の観光資源の見学」が最も多く、「地元の名産品の堪能」など、周辺地域との連携を意識した魅力が多い。
	パネル	・「他の観光資源の見学」といった周辺地域との連携を意識しているものは少ない。	・「他の観光資源の見学」といった周辺地域との連携を意識しているものは少ないが、イベントの紹介をしているものは多い。
構造物×魅力	民間	・「ダム-普段入れない場所の見学」の組み合わせが最も多い。 ・「ダム堤体」、「ダム湖」は幅広い魅力付けがされている。	・「ダム-他の観光資源の見学」の組み合わせが最も多い。 ・「普段入れない場所の見学」、「他の観光資源の見学」、「解説付きの見学」は幅広い構造物で魅力とされている。
	パネル	・「スケールの体感」は幅広い構造物で魅力とされている。 ・「工事現場の見学」、「通常と違った視点からの眺望」は構造物に偏りがみられる。	・「普段入れない場所の見学」、「工事現場の見学」、「スケールの体感」は幅広い構造物で魅力とされている。

※昨年と変化した点に網掛け

5. まとめ

本稿では、ポータルサイト掲載事例について、先行研究^[2]との比較に基づき、インフラツーリズムの魅力等の変遷を明らかにした。その結果、対象とされる構造物だけでなくツアー内容も多様化してきている実態が明らかになった。特に民間主催ツアーに関しては、他の観光資源の見学を含むものが増加しており、周辺地域への意識が高まっている。

また、アンケート調査結果から、ツアー主催者(主に管理者)が売りにしている魅力は、おおむね参加者のニーズと一致していることが明らかになった。一方、「インフラ見学+周辺散策」や「ウォーキングツアー」を求める意見が多い中、そのようなツアーが少ないことや、民間主催ツアーでは対象とされていない構造物への関心が高いという点については、ツアー主催者が提供する魅力と参加者ニーズとの間にずれが生じていることが明らかになった。

6. 今後の課題

今後は、本稿で整理した留意事項を踏まえて、ウォーキングツアーを企画・実施する。そのうえで、参加者に対してアンケート調査を行い、ツアーの満足度や企画側の意図が参加者に伝わっているかという点を検証する。具体的には、多様な土木遺産が集積する港区の芝公園周辺及び品川~天王洲を対象地として、2017(平成29)年11月及び12月にツアーを2回実施する予定である。

7. 参考文献

- 国土交通省 インフラツーリズム PORTAL SITE <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/>
- 久松賢生, 阿部貴弘:「インフラツーリズムの魅力に関する基礎的研究」, 土木史研究 講演集, Vol.37, pp.125-132, 土木学会, 2017
- 阿部貴弘, 小野田滋, 福島秀哉, 緒方英樹:「土木学会 100 周年事業『土木遺産を訪ねて』の実践を通して見た土木遺産ツアーの課題と可能性」, 2013
- 山浦直人|ほか:「土木遺産の観光活用のとらえかた(その2)」, 土木史研究 講演集 vol.37, pp.117-120, 土木学会, 2017